

## ○国際交流・社会貢献等の概要

### ●海外との協定相手校

海外教育機関等との提携については、以前行っていたフィンランドセイナヨキポリテクニク大学や中国南海大学濱海学院とは提携の更新を行っていないため、現在までのところ、海外の教育機関等との提携はない。

### ●大学間連携

「単位互換に関する包括協定」の締結

群馬県内の7大学 群馬大学、群馬県立女子大学、関東学園大学、上武大学、東洋大学、共愛学園前橋国際大学、放送大学で単位互換に関する包括協定を取り交わしている。

これらの大学間のいずれかに在籍する者で「特別聴講学生」として受け入れを認められた者は、この協定により他大学の授業科目を履修し、単位を修得することができる。

### ●産学官連携

○群馬ダイヤモンドペガサスとのスポーツマネジメントにおける以下に掲げる項目等に関する産学連携

1. スポーツマネジメントの研究と実践（スポーツビジネスにおけるマネジメント調査・研究）
2. 地域活性化策の共同研究と実践（地元商店街とのタイアップ事業構築）
3. ボランティア運営の研究と実践（開催ホームゲームにおけるボランティア組織作りと実践）
4. その他、地域貢献における研究

○伊勢崎市教育委員会との伊勢崎市立学校の教育活動への支援に関する連携  
将来の社会を担う国際的視野に立った立派な人材を育成するために、本学と伊勢崎市教育委員会で相互連携・協力を行うもの。本学からは、伊勢崎市立学校のカリキュラムパートナーとして、従来までに培った教育資源を活用し、伊勢崎私立学校の教育活動の円滑な推進に対して可能な範囲で支援を行っていく。また伊勢崎市教育委員会では、本学で必要とする教育情報の収集や研究・研修の場として、可能な範囲で提供を行っていく。

○中小企業金融公庫前橋支店との相互協力協定

本学における研究成果等を地域社会にいつそう円滑に還元すること及び緊密な情報交換を行うことにより、地域の産学連携を推進し、もって地域中小

企業及び地域社旗の発展に貢献することを目的として協定を締結した。

具体的には、①本学における研究成果等のシーズと地域中小企業の経営相談ニーズのマッチングのコーディネートを行っていく。②中小企業金融公庫前橋支店の取引先からの経営相談に関する支援、③地域中小企業の経営相談の情報収集及びそれに対する情報提供などの事項に取り組んでいく。

○群馬県が主導する「ぐんま地域・大学連携協議会」へ参画し、行政（市町村等）が問題提起するモデル事業に共同して取り組んでいる。これは地域と大学との連携・協働を促進し、大学等の知的資源を地域課題の解決に活用する仕組みを構築するためのものである。

・ 21年度採択モデル事業

太田市より事業所の子育て支援策と労働環境の整備に係る自治体の役割」

・ 22年度採択モデル事業

伊勢崎市より「ものづくり企業の販路拡大のためのインターネット活用策の研究」

## ●社会貢献

○公開講座

平成24年度実施

・ 小池邦夫「絵手紙のすすめ」

平成24年10月7日

・ パソコン講座

平成25年3月6日・8日・13日・22日・27日

○授業を通じたボランティア活動

・ 第24回高崎スプリングフェスティバル

平成25年4月29日

学生6名

高崎市民や子供たちとの交流

・ 宮城県石巻市

平成25年5月10日～13日

学生3名、教員1名

石巻市に集まった人たちと協力して田畑の石などの撤去作業

・ 2013 県民参加フェスタ 観音山ファミリーパーク

平成 25 年 5 月 18 日～19 日

学生 20 名

県民フェスタのボランティアスタッフ

・群馬県立東毛青少年自然の家

平成 25 年 7 月 26, 29 日、8 月 3, 4, 5, 20 日

学生 1 名

野外炊事、キャンプ準備活動補助、環境整備など

・第 39 回高崎まつり ボランティア 音楽センター・市役所周辺

平成 25 年 8 月 3 日～4 日

学生 20 名、硬式野球部 30 名

受付、広場支援、花火警備、周辺清掃など

・新町ふるさと祭り「神輿まつり」の神輿担ぎボランティア

平成 25 年 8 月 11 日

学生 11 名

群馬銀行新町支店駐車場、新町旧中山道通り・駅前通りにて

・埼玉県児童福祉協議会第 14 回児童福祉施設親善球技大会

平成 25 年 8 月 21 日

学生 10 名

各試合の審判員など

・美原記念病院

平成 25 年 8 月 31 日

学生 17 名

美原記念病院第 18 回夏祭りのボランティア活動、会場設営、模擬店、清掃など

○医学生理学研究所

澁谷正史所長がこれまでに研究されてきた成果物について、海外の研究機関などから利用希望の申し入れがあり、一定の条件のもと譲渡を行っている。これらの成果物に関しては、成果有体物譲渡契約書を締結し、東京大学医科学研究所の協力を得ている。

実際にアメリカの Lilly 社において、商業的価値あるものの開発のための譲渡依頼があり、これに応じ、その他カナダの Samuel Lunenfeld 研究所から、中国の中山大学から、同様に研究のための譲渡依頼があり、これらにも応えている。

#### ○国際交流の一環としての絵手紙

ビジネス情報学部ではアジア地域ビジネス学科に在籍している留学生がたくさんいるが、平成24年度からこの留学生たちに日本の文化の理解や日本人とのコミュニケーションの促進を図ることを目的として、新たに美術の授業を開講しそこで絵手紙を教授している。講師は絵手紙協会の公認講師でもある澁谷朋子上武大学理事長である。

筆を持つのも初めてで、絵も描いたことがないという留学生もいたため、はじめのうちはとまどっていたが、徐々に描くことに慣れ「ヘタがいい、ヘタでいい」という絵手紙の基本的な考えにも理解が及ぶようになった授業の後半では、留学生ならではの独創的な味のある絵手紙を描くようになっていった。こうした本学の取り組みに関心を持ったのが、本学の客員教授で日本絵手紙協会会長の小池邦夫先生である。先生は澁谷理事長からこうした話を聞き、留学生に強い関心を持たれるようになった。そこで昨年引き続き今年も7月に小池先生による特別授業を開催した。学生たちは絵手紙のいろいろな話を直接小池先生から披露してもらい、熱心に耳を傾けていた。また実際に描かれた絵手紙を見て、小池先生は「日本人の若者だけでなく、留学生にも十分に楽しんでもらえる、気持ちを伝えることができる」と感想を漏らしており、今後世代を超え、国境を超えて、絵手紙という文化が根付いていく縮図を上武大学に見出していたようであった。

#### ○さまざまな機関や団体、行政などからの要望に応じて、本学教育職員を送り、社会貢献の役割を担っている。

##### ・学長

厚生労働省第3次対がん総合戦略研究事業中間・事後評価委員、厚生労働省厚生科学審議会専門委員、財団法人がん研究振興財団評議員選定委員会委員、公益財団法人武田科学振興財団理事、公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団研究費審査委員会委員、公益財団法人微生物化学研究会研究アドバイザー、東京大学大学院新領域創成科学研究科客員教授、国立大学法人東京医科歯科大学客員教授、独立行政法人国立がん研

究センター東病院外部評価委員会委員、独立行政法人産業技術総合研究所ヒト由来試料実験倫理委員会委員長、第36回日本リンパ学会総会招待講演、平成24年度日本生化学会関東支部例会特別講演など

・その他

私立大学等研究設備整備費等補助金等に係る選定委員会委員  
伊勢崎市廃棄物減量等推進審議会委員など